

社會に絞取する者と絞取される者との差別の生ずるに至つたのは、主として地代、利子、潤利が古
代から行はれて来たからに外ならない。人間は正當に働いて得たるものだけであれば、如何に生活費
の剩餘を蓄積したからとて大金持になれる筈のものではない。人に土地や家屋を貸して地代や家賃を
取り、金を貸して利子を取り、人に働かせてその上前をはねたり、商業取引で儲けたりコミッション
を取つたりするところに、勞力に依らざる掠奪的な不正な財産が生じて來るのである。そして財産
は單なる財産に止まらずして、更により多く絞取がそれに依つて行はれる様になり、その結果支配す
る者と支配される者、即ち主人と奴隸との區別が、益々はつきりとなつて來るのである。

財産に依つての絞取、財産に依つての支配が全然廢せられるに至らなくては、凡ての人が獨立した
自由生産者である自活の新しい社會は來るべくもない。實に地代、利子、利潤に依つて生活する全て
の寄生的動物が、人間の社會に生ずるに至つた所から、多くの人々はその爲めに犠牲となり、自由と
獨立とを奪はれて了つたのである。資本家に資本を獨占されて了つたとき、無産者は最早獨立した生
産者ではなくして、賃銀奴隸と餘儀なくされて了つた。何人が賃銀奴隸であることを好む者があらう。
財産に依つて支配する者の壓迫に依つて、さうせしめられて了つたのである。
勞働者が獨立して企業を営もうとしても、資本家が全力を盡してすつかり獨占してゐるので有利

もする事が出來ない。仕方なくその勞力を賣つて、資本家の意志のもとに働かしめられるより外に全
く生活の道がない。そして資本家の爲に、その勞力の一部或は大部分を捧げて、剩餘價值を生ぜしめ
てやる事を餘儀なくせしめられる。實に資本家は、資本を獨占する事によつて、凡ての産業を殆んど
獨占して了つてゐるのである。其處から至ての害悪が生じて來る。

自己の本當の勞力に依つて得たるものでなくてはすべて悪い。人の勞力を掠めて生活してゐるとい
ふことは恥すべきことであると思はなくてはならない。地代や利子や利潤で生活してゐる所謂地主や
資本家は、人の勞力を掠めて生活してゐる人々である。現代の法律はそれを許しておいたからとて、
道徳上から見れば全く正義に反するものである。多くの人々は、地代、利子、利潤の社會に行はれて
ゐるのを、少しも不思議とも不正なことであるとも思つてゐないであらう。そして多くの人々はこの
偶像を背負つて平氣でゐるのである。偶像の重荷に既に堪へられなくなつてゐても、まだそれとは氣
附かずにゐる。

けれど吾々は既に目覺めた。社會の根本の惡が何處にあるかを知つた。だから吾々は多くの人目に
そのことを知らしめなくてはならない。多くの人々はそのことに氣附かざる故に平氣でゐるのである。
民衆の眞の解放は、其處に氣附いたときから開けて來るのである。人々は皆直接の勞働に依つてのみ